

令和7年9月4日

南会津町議会

議長 山内 政 様

南会津町議会広報委員会

委員長 芳賀正義

### 町村議会広報研修会報告書

全国町村議会議長会主催の標記研修会に参加してきましたので、下記のとおり報告します。

#### 記

- 1 日 時 令和7年8月28日（木） 13：00～16：40
- 2 場 所 東京都 渋谷区 LINE CUBE SHIBUYA
- 3 参 加 者 芳賀正義・星 和孝・酒井幸司・湯田剛正・古川 晃・渡部裕太  
議会事務局 渡部龍人主事
- 4 研修内容
  - (1) 「インタビュー記事を足して読まれる広報紙にしよう」  
講師：インタビューライター 丘村奈央子 氏
  - ① インタビュー記事の政策手順
    - 1 インタビュー記事にしたい題材を選ぶ
    - 2 取材目的を明確にする
    - 3 良いレイアウトと文字数を確認する
    - 4 目的に合致した質問を準備する
    - 5 当日取材する
    - 6 書く
  - 良いレイアウトと文字数を確認する
    - ・見開き／縦書き／写真2枚
    - ・段数：1行15字×40行＝1段、1ページ4段が基本
    - ・文字数：約3200字が適当
  - 目的に合致した質問を準備する
    - ・自分たちの取材目的を果たす
    - ・取材先にとって出るメリットがある
    - ・読者にとって読むメリットがある

○当日取材する

- ・手の内を明かす
- ・用意した質問から広げる
- ・話が逸れたときの戻し方…聞き手が軌道に戻すことを考える

○書く

- ・良かった回答から採用する
- ・方言や独自の言い方を残す

② インタビュー記事のメリット

- ・出来上がったら、相手に知らせてお礼を伝えると広報紙を周知してもらいやすい。
- ・質問内容や会話の姿勢で人柄を伝えられる。
- ・声高な「発信」だけが発信ではない。
- ・他人の経験や考え方をインストールできて自分の引き出しも広がる。
- ・読まれる広報紙のためにも、自分の経験のためにもインタビュー記事を作ってみること。

○所 見

インタビュー記事を加える視点は納得でき、読者の住民参加と双方向の交流は重要と考えます。記事作成を学ぶ事は、今後に生かせる機会もあると考えます。

(2) 「スマートフォンを活用した撮影技術・動画作成の基本～一人でもできる撮影ノウハウ、インタビュー撮影技術～」

講師：映像講師・映像ディレクター・

(公社)日本広報協会広報アドバイザー 渡川修一 氏

① 人が登場する動画

- ・公式な挨拶は2～3分程度、自己紹介は15～30秒程度
- ・顔が明るく映る場所で撮る
- ・相手との距離と高さを理解し、背後にスペースを作る

② カメラの前で話すコツ

- ・自分が話しやすいよう短い文章に小分けにし、覚え易い原稿に作り変える

③ 動画の役目

- ・一言一句正確に伝えることよりも、その人らしさや雰囲気伝えること

④ 自分が話す時の型

- ・名乗る→話すテーマを言う→ポイントを話す→締め言葉(行動を促す)

⑤ 相手に聞くときの型

- ・質問を絞り、相手が短く答えやすいよう準備する

⑥ 編集の流れ

- ・削る→テロップ→動画保存（編集はこれだけで良い）

⑦ 動画を YouTube で公開する

- ・ホームページに掲載出来る
- ・広報誌やチラシからも QR コードで YouTube に誘導できる

⑧ 実際の動画活用例（寄居町・葉山町）

- ・QR コードで議員の動画を貼り、議員の見える化で個人も知ってもらう
- ・議会活動を広く町民に報告する手段として「議会報告会」動画を作成
- ・議員による短いコメントも
- ・議会だよりを動画でも発信し、冊子から QR コードでショート動画へ誘導

○所 見

今回映像ディレクターの専門的な見地から「伝わる動画」の撮影方法を学ぶことは貴重な経験となりました。また SNS や動画発信が主流となっている現在、私たちの取り組みの課題と感じます。

（３）「議会活性化と連動した広報紙づくり～住民の政治参加をうながすツールに～」

講師：福岡県大刀洗町議会 議会広報委員長 平山賢治 氏

○町の概要…面積 22.83 km<sup>2</sup>、人口 16,141 人、世帯数 6,478 世帯、  
高齢化率 28.2%、7 年度当初予算 92 億 2,334 万円  
海山無く面積の 6 割が農地

※町村議会議長会主催全国広報コンクールで 10 年間連続入賞  
を果たしている。

○議会活性化の動き

- ・一般質問土休日に実施（平成 29 年まで）
- ・全議案への自由討議、一般質問答弁の追跡制度の開始
- ・議会報告会を毎年 4 会場で開催
- ・議会モニター（定例会ごとに意見交換）
- ・団体との意見交換…政治サークル、区長会、消防団など
- ・予算・決算委員会から全会一致の意見を付する

○議会だよりの発行

- ・企画、取材、執筆、レイアウト、構成まで議員が一貫して担っている
- ・委員会 5 名以内、発行部数 5,600 部、全世帯区長配付 137 万 9 千円  
年 24 ページで計上
- ・編集作業は広報委員 5 名と事務局 1 名で行い、議長が決裁
- ・編成用会議は、定例会前 1 回、閉会后 4 回の 5 回が基本
- ・定例会翌月の第 4 金曜日に発行

#### ○新たな試み・参考となる点

- ・議会モニター（公募で定員 8 人以内、任期 2 年）
- ・議長通信（議会を代表し、定例会の所感や決意をひとこと）
- ・手話通訳や声の議会だよりも随時紹介
- ・自由討議の推進
- ・「検討中」と回答があったものを追跡…定例会終了後、質問議員が追跡調書を提出→町長は次の定例会まで方針や進捗を文書で回答

#### ○成果と課題

- ・共感や批評などの町民からの反応が増えた
- ・議会活動…広聴を軸に、住民との双方向型、循環型の政策サイクルが一定の前進
- ・委員の負担増…閉会后もかなりの時間を割く
- ・活性化を進めるほど議員の作業量が増える

#### ○所 見

全国で最先端の「町議会だより」としての内容は、参考になるものが多く、もう一度活動内容を精査し、活用できるものは取り入れていくことで、「町議会だより」の発展にも繋がると思います。

#### 5 所見（総括）

今回の研修では、3つのテーマの講演となり、それぞれの所見の通りです。なお研修会は今までとは違った講演内容であり「議会だより」の先端の町の講演には感動しました。まだ当町の議会広報は十分でないことを認識し、委員また議員の共通課題として、今後よく精査し生かすことが使命と思われます。なお、日々社会の進展は早く研修を重ねることも大事です。今後とも受講の機会をお願いいたします。